

### 第3 重点施策

#### 1 露地野菜産地の維持・強化のための大規模経営体の育成

##### 現状と課題

香取地域の主要な露地野菜は、さつまいも（香取市、神崎町、多古町）、やまといも（多古町、香取市）、にんじん（香取市、多古町）、こかぶ（東庄町）となっている。

いずれの品目も、高齢化による離農者がいるなか、省力機械や雇用労力の導入、専用貯蔵庫の導入による出荷作業の分散化により、若手農業者や認定農業者が経営規模を拡大しているが、地域全体の作付面積は減少傾向にある。また、連作により単収・品質の低下が見られ、輪作体系の普及が急務となっている。

##### 目指す姿

経営規模を拡大した担い手や新規参入した担い手により、生産量・品質が維持され、安定して消費者から選ばれる産地となっている。

##### 数値目標

指標名	単位	現状 R3年度	目標又は目安 R7年度	備考
さつまいもの作付面積 (JAかとり+法人経営体等)	ha	599	710	

##### 重点施策・取組

###### 【経営規模拡大に向けた支援】

- ・出荷調製に係る労力補完やドローンなどスマート農業機械を活用した防除作業委託の仕組みづくり
- ・畑地かんがいの活用とスマート農業の導入による高品質生産
- ・地域の担い手への農地の集積

###### 【生産量の維持・拡大】

- ・にんじん、落花生等の輪作や緑肥導入等による連作障害の回避と減農薬・減化学肥料栽培の検討
- ・個別農家やJAによる専用貯蔵庫・予冷库等の導入による出荷期間拡大と品質向上
- ・定植機、収穫機等を活用した機械化体系による省力化の実現

###### 【担い手（後継者）の育成】

- ・規模拡大のできる高い経営能力を有する担い手の育成
- ・新規就農者や新規栽培者の掘り起こしと定着



## 2 県内一の水田農業を担う大規模経営体の育成

### 現状と課題

離農者の増加に伴い、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積が進んでいるが、スマート農業の積極的な導入や農地の集約化による効率化や経営安定が求められている。

### 目指す姿

大規模経営体や集落営農組織等が営農し、優良な水田が維持されている。また、農地中間管理事業を活用した農地の集約化が図られ、スマート農業技術が導入され食料生産が効率的に行われている。

### 数値目標

指標名	単位	現状 R 3 年度	目標又は目安 R 7 年度	備考
30ha 以上の経営体数	戸	25	35	
農地中間管理事業を活用した集積面積	ha	1,400	2,000	

### 重点施策・取組

#### 【大規模経営体の育成】

- ・ 飼料用米や WCS 用稲を活用した経営の安定化と、需要に応じた米生産の推進
- ・ 積極的なスマート農業の導入による省力低コスト技術の普及
- ・ 法人化や経営継承の推進による持続可能な水田経営体の育成
- ・ 不測の事態に対応できる収入保険等の加入促進
- ・ 飼料用米専用品種の面積拡大と収量向上

#### 【水田農業の効率化】

- ・ 地域の話合い（人・農地プラン）による、担い手への農地集積・集約化の推進
- ・ 経営体の機械・施設の整備支援



### 3 水田基盤整備と新たな担い手の育成

#### 現状と課題

管内各地域で基盤整備事業の実施に向けた話合いが進められており、整備後の担い手となる集落営農組織の育成、経営の安定に向けた高収益作物の導入、農業機械、乾燥調製施設の整備支援が求められている。

#### 目指す姿

効率的な営農が可能な優良な水田が整備され、集落営農組織や地域の担い手が需要に応じた米生産や高収益作物を栽培し、安定した農業経営を行っている。

#### 数値目標

指 標 名	単 位	現 状 R 3 年度	目 標 又 は 目 安 R 7 年度	備 考
集落営農組織の設立件数	件	187	190	
新規基盤整備事業面積	ha	36.6	200	

#### 重点施策・取組

##### 【新たな担い手の育成】

- ・人・農地プランの作成と見直しの支援
- ・担い手への農地集積、集約化
- ・需要に応じた米生産の推進

##### 【担い手の経営安定】

- ・機械・施設の整備計画の作成と導入支援
- ・高収益作物（ねぎ、キャベツ、ブロッコリー等）の選定と栽培支援
- ・基盤整備後の営農に関する情報交換の推進
- ・飼料用米専用品種の面積拡大と収量向上
- ・不測の事態に対応できる収入保険等の加入促進
- ・法人化や雇用導入の推進

##### 【効率的な営農に向けた基盤整備】

- ・スマート農業機械を最大限に活用できる基盤整備の実施
- ・高収益作物栽培に向けた排水対策の実施

#### 4 自給飼料の安定生産と収益力の高い畜産経営体の育成

##### 現状と課題

畜産クラスター事業の活用により、各部門とも大規模化が進んでいる。酪農経営においては、WCS用稲や飼料用トウモロコシなど自給飼料の生産にも積極的に取り組んでいる。また、大規模経営体には後継者もおり、確実な経営継承に向けた経営管理能力の向上支援が必要である。

##### 目指す姿

それぞれの経営規模に応じて、搾乳ロボットなどスマート農業を活用した生産体系を導入し、規模拡大と省力化を実現した経営を行っている。

また、自給飼料の生産・利用を拡大し、輸入飼料の価格に左右されない安定し経営を展開している。

##### 数値目標

指標名	単位	現状 R 3 年度	目標又は目安 R 7 年度	備考
管内飼養頭羽数（乳用牛）	頭	5,600	5,650	
自給飼料の栽培面積	ha	485	580	

##### 重点施策・取組

###### 【収益力の高い畜産経営体の育成】

- ・畜産クラスター事業等の積極的な活用による施設整備や機械導入の支援
- ・スマート農業の導入による効率的な牛群管理の推進
- ・経営継承に向けた後継者の経営管理能力の向上
- ・園芸及び農産分野への堆肥の活用

###### 【自給飼料の安定確保と生産拡大】

- ・自給飼料生産に向けた機械の導入支援
- ・家畜堆肥の地域循環を前提とした、WCS用稲をはじめとする耕畜連携の推進



## 5 災害に強い森林づくり

### 現状と課題

令和元年房総半島台風では、各地の森林で風倒被害が発生し、周辺のインフラ施設等にも被害が及びました。近年、気象災害が激甚化・頻発化していることを踏まえ、被災森林の復旧を進めるとともに、風倒木による被害を未然に防ぐための森林整備等、災害に強い森林づくりが進むよう支援する必要があります。

### 目指す姿

風倒木対策を含めた適切な森林整備の推進によって、災害に強い健全な森林づくりが着実に進んでいます。

### 数値目標

指 標 名	単位	現 状 R 2 年度	目 標 又 は 目 安 R 7 年度	備 考
災害に強い森林づくり推進面積（累計）※	ha	0.7	6.5	

※令和元年度からの、被災森林の復旧、森林整備による倒木対策、山地災害対策の累計

### 重点施策・取組

#### 【被災森林の復旧と未然防止の推進】

- ・令和元年房総半島台風等による倒木被害森林の復旧
- ・倒木被害の未然防止につながる森林整備の支援

#### 【山地災害対策の推進】

- ・山腹崩壊や土砂の流出による災害の発生を軽減するための山地災害対策の推進



令和元年房総半島台風での被害